

# 十八、若杉山の歴史と杉について

筑紫平野の東に位置する若杉山(標高六八一<sup>メートル</sup>)ですが、その名の通り杉におおわれています。同山は太祖宮、篠栗新四国八十八ヶ所の奥の院、金剛頂院、明王院、石井坊などを擁する信仰の地であるとともに、登山やキャンプ、大和の大杉などの巨木をめぐる散歩道として年中にぎわっています。また若杉山一帯に降った雨は若杉川となって、若杉、尾仲、乙犬の田を潤し、粕屋町の浄水や、同町をはじめ須恵町、福岡市の水田の灌漑水にもなっています。

若杉山の名の由来は、朝鮮半島から帰還した神功皇后が、香椎宮に参詣した際、同宮の綾杉を分けて植えたことから分杉山になったという伝説にもとづくものです。このことは『筑前国続風土記』『貝原益軒』にも「香椎の杉を分ち植玉ひし故、分杉と號す。後世若杉は訛なり」とあります。

これは以前から神木である綾杉などの竹木を保護してきた慣行を、大内氏が追認した形と考えられています。しかしその後、『筑前國續風土記』に「近き世までは、綾杉多かりしが、筑前中納言秀秋の時、切除れて今はなし。…今も此山には、よのつねの杉多し」とあるように、秀吉の朝鮮半島出兵の軍船を作るため、小早川秀秋によって綾杉は伐り尽くされてしまい、貝原益軒の頃には普通の杉が多かったようです。さらに『遊分杉山記』(吉留濟 九州大学松垣文庫)には「満山皆杉樹不知幾萬株：小早川秀秋：伐盡綾杉□□存者然尋常之杉乃多矣目出之宜也杉大者数圍高□□十間直如竹竿：」とあります。この文は一七九八年に書かれており、貝原益軒より約百年後になります。若杉山は杉におおわれ、幹周回数抱えもあるすくすく伸びた杉の姿が活写されています。

この頃、黒田藩の植付役であった平井清次郎一快(旧篠栗村在住)とその子である弥五太夫一益が杉苗など約百万本を植林しています。もちろん明治時代以降も、杉の植林が行われたことはいまでもあり八十八ヶ所参りの人々にぎわうのは何故でしょうか。この謎を解くには、若杉山を日本的視野で見る必要があります。

朝鮮出兵、遣唐使船という日本の重要な出来事の舞台は博多の港であったし、同港は常に世界への窓であり、西日本の政治の中心は大宰府に置かれていました。博多から東を眺めると、若杉山が目の前にあります。また大宰府へは若杉山から、砥石山、三郡山、宝満山と山伝いに歩いて行ける距離でした。まさに若杉山は西日本の神社仏閣の中心として、多くの善男善女でにぎわったものと思われれます。

私はこれまで毎年何十回と若杉山に登ったり、楽園まで散歩をしたりしてきました。そしてその度に、四季折々の草木、花の美しさや鳥の声を楽しみ、遍路の人達や登山者達とふれあい、古の歴史に想いをはせています。私の愛する若杉山のことを、これからももっともっと詳しく知りたいと思っています。

また、インドの密教の僧、善無畏三蔵が中国から日本に来るとき、玄界灘で嵐に見舞われ、八大龍王に嵐を鎮めるよう頼み、無事博多に着いたので若杉山に登り、太祖宮に参詣したとのことです(九州歴史資料館『筑前糟屋若杉山の仏教遺跡』)。その後、善無畏三蔵は七一八年に、養老の滝の傍に真言宗の明王院を開いたと伝えられています。その八十八年後、中国の二年間の仏教留学を終え帰国した空海が、入京を許されず、大宰府の観世音寺に二年ほど滞在している間に、若杉山にも足跡を残し、奥の院を開いたとされます(『粕屋武城』若杉郷土誌)。

平安時代には、石泉寺(若杉の石井坊跡)を中心とした右谷と、建正寺(現須恵町)を中心とした左谷(佐谷)の両谷の宿坊は併せて三百にもほり、大いになぎわったといえます。しかし中世に両谷の宿坊は相争い、火を放ち合ったため、全て焼失してしまいました(九州歴史資料館、前掲書)。

また『粕屋町誌』によれば、一五四四年、筑前守護代大内義隆は若杉山での竹木の伐採を禁止しており、ません。しかし『若杉郷土誌』では「大東亜戦争中海軍用材として伐採され爾来農林省伐採を続けさしもの名木若杉の老杉が年々落魄稠するの、観光の地区として嘆かほしい」とあり、近年になっても杉の受難は続きました。

以上かけあして若杉山の歴史を、杉を中心に述べてきました。しかし若杉山の杉は、そもそも太古から自生であったのか、あるいは植林されたものかという問題があります。井上晋氏(九州大学助教授、森林生態学、篠栗町文化財専門委員)は、九州には屋久島をのぞき明確に杉の自生地はないので、若杉山の杉は植えられたものであろうと言っておられます。太祖宮の始まりは不明ですが、長い時間をかけて太祖宮の氏子や峰々を歩いた修験者達が少しずつ植えたものが自然に増殖したのでしょうか。あるいは仏教が伝来し、信者が多く参詣するようになり、さらに杉を植えるようになったのでしょうか。

このように若杉山一帯は神仏混漕の信仰の聖地として民衆を惹き付け、今日に至っても篠栗新四国



中央が若杉山

篠栗町文化財専門委員  
篠栗古文書会

武藤 軍一郎